

今回の三溪園の見学会では、内苑を中心に財団法人三溪園保勝会川幡先生の案内のもと、建物内部まで見学する機会を得ることが出来ました。

時代背景も様々な京都・鎌倉から移築された建築群は絶妙なバランスで園内に配置され、まとめ、原三溪の並々ならぬこだわりを感じさせるものでした。

それは、個々の建物へのアプローチであり、池と建物が一体となった風景や縁側から望む三重塔などからも感じ取れます。

建物内部には、絵、漢学、詩文を学んだという三溪自身のデザインによる家具や書画も多く見られ改めてその人物の多才な能力、物事を広く捉える尊大さに脱帽する思いでした。

普段、設計を業務で行う上で和風建築を設計するという機会は殆どありませんが、直接、古建築の要素を取り入れるのではなく、空間の捉え方、考え方といった面で建具の可変性、借景を考慮した窓や内と外の一体感などには学ぶべき点が多く参考になるものでした。

また今回あまり見る事の出来なかった外苑、四季により表情の異なる庭園全体も機会を見つけ見学に訪れたい思いに駆られました。(神林)